

「スポーツ言語学研究」執筆要綱

1. 投稿原稿の書式・分量

(1) 使用言語は、日本語を原則とする。ただし、日本語以外の言語での投稿を希望する場合、編集委員会でその可否を審議するので、事前に相談すること。

(2) 表題・要旨・キーワードは、日本語と英語の両言語で記す。

(3) 原稿は、左横書きとする。

(4) 原稿は、A4 サイズに 1 ページ 40 字×38 行で印字する。字体および文字サイズは、以下の通りとする。なお、マージンは上 35 ミリ、左右 30 ミリ、下 30 ミリとする。詳細は別紙の書式設定（見本）を参照のこと。

① 表題：MS ゴシック 17 ポイント

② 副題：MS ゴシック 15 ポイント

③ 投稿原稿の種類：MS ゴシック 12 ポイント

④ 本文、キーワード、要旨、所属、氏名：MS 明朝 10.5 ポイント

⑤ 図表：表題 MS ゴシック 9 ポイント

それ以外 MS 明朝 8 ポイントまたは 9 ポイント

(5) 原稿（本文：図表・注・参考文献を含む）の分量は以下の通りとする。

① 研究論文および実践報告：15 ページ（22,800 字。400 字詰め原稿用紙 57 枚相当）

② 研究ノート：10 ページ（15,200 字。400 字詰め原稿用紙 38 枚相当）

(6) 要旨の分量は以下の通りとする。

① 日本語：600 字以内

② 英語：200 語以内

(7) 本文中に章・節等の記号をつける場合、章は「1.」「2.」、 「第 1 章第 1 節」は「1.1」とし、以下これに準ずる。

(8) 本文中の外国人名等の固有名詞は、以下を表記の原則とする。

① アルファベット表記が可能な場合、英語綴りまたは特殊記号を省略した原綴りで記す。

例：Ann Gardner、Bozena Kukuc

② 漢字表記が可能な場合、漢字表記で記す。

例：王燕燕

③ ハングル等、アルファベットまたは漢字表記以外を使用する場合、（ ）にアルファベットまたは漢字表記を記す。

例：김유진 (Kim Yoo Jin) 백금종 (白金鐘)

ただし、上記①～③ともに、公式の名称等として著名なものは、カタカナ表記でもよい。

(9) 紀年法については引用を除き、西暦を用いる。

(10) 注は論文の末尾に入れる「末尾注」とし、脚注は使用しない。

(11) 引用文献は参考文献に含める。参考文献の表記方法は、投稿者の分野で用いられる方法に準じる。

2. 投稿時の提出物・提出方法

- (1) 投稿は、電子メール通信によりこれを行う。
- (2) 電子メールの件名は「『スポーツ言語学研究』投稿」とする。
- (3) 投稿時には、それぞれ別のファイルにした「投稿シート」「原稿正本」「原稿副本」を添付で送信する。

なお、ファイル名の（ ）内には筆頭著者のフルネームを書き入れる（例：投稿シート（学会花子））。

- (4) 上記（3）の3種類のファイルは、PDF ファイルにして送信する。
- (5) 投稿シートには、以下の事項を記す。
 - ① 原稿の種類（研究論文・実践報告・研究ノート）
 - ② 表題（日本語・英語）
 - ③ 著者名・著者所属機関名・職名（日本語および日本語のローマ字表記）
 - ④ 連絡先（住所・電話番号・FAX 番号・E-mail アドレス）共著の場合は、筆頭著者の連絡先を記す。
- (6) 原稿正本には、以下の事項について、記した順に書く。また、各ページにはページ番号を付す。
 - ① 原稿の種類（研究論文・実践報告・研究ノート）
 - ② 著者名・著者所属機関名・職名
 - ③ 表題・要旨（日本語：600 字以内、英語：200 語以内）・キーワード（5 語以内）
 - ④ 本文（図表・注・参考文献を含む）
- (7) 原稿副本は、原稿正本から②著者名・著者所属機関名・職名を除いたものとする。注・参考文献・謝辞・付記等で、著者が特定できるような場合、副本ではその部分を削除するか、伏せ字にして特定できないようにすること。